

1 経済の好循環

(3)生産性の向上 ③スタートアップ等に果敢に挑戦できる環境整備

国への提案事項

急速なデジタル技術革新により、時間や場所にとらわれないビジネス環境の整備や、デジタルネイティブ世代である若者の起業増加など、「地方が挑戦の場として有利となる」変化が起きつつある。

こうした中で、日本経済の成長には、地方からも、新たな価値の創出に挑戦するスタートアップがビジネスしやすい環境を整える必要があり、すでに広島では、ユニコーン並の急成長する企業に対して、成長段階に合わせた支援を実施している。については、国においてもこうした地方の取組と連動しながら必要な施策に取り組んでいただきたい。

スタートアップ等に果敢に挑戦できる環境整備

- オープンイノベーション税制やストックオプション税制、個人投資家向けのエンジェル税制など、スタートアップ税制は拡大しているところであるが、いずれも対象と規模が限られている。
機関投資家からベンチャー企業等への投資規模が拡大するよう、機関投資家への税財政措置等の投資優遇策を充実させるとともに、機関投資家の中間的役割を担うベンチャーキャピタル等の人材確保・育成を行うなど、財的・人的の両面から地方でスタートアップが生まれ成長する実効性のある仕組みへと改善すること。
- スタートアップ拠点都市における地方大学での経営人材のプール化に関する措置がなされ、今後の試金石と期待できる一方で、大学発スタートアップに効果がとどまることから、広くスタートアップ等にも活用できる仕組みへと拡充すること。
- スタートアップの先進的なビジネスモデルの社会実装に向け、地方公共団体と軌を一にして、大胆に規制緩和等に取り組むこと。

【提案先省庁：内閣府、デジタル庁、経済産業省】

広島県の取組

- 広島からユニコーン企業を創出し、これをロールモデルとして、挑戦することが当たり前の土壌づくりや文化を醸成する「ひろしまユニコーン10」プロジェクトとして、急成長を志す企業を対象に、ニーズや成長段階に合わせた専門家によるハンズオン支援や、投資家・大企業とのマッチング機会の提供、海外進出支援等を実施。
- 県内をまるごと実証フィールドとし、県内外のプレーヤーが共創してイノベーションの創出を目指す「ひろしまサンドボックス」などを通じて、実証したソリューションが地方へ展開され、新たな市場が創出されるよう、規制緩和・ルールメイクへの挑戦に対する支援を実施。
〔実証事例〕 小型船舶の無人航行、3Dプリンター住宅、眼科遠隔診療 ほか
- 新たな創業を創出するため、窓口相談、創業サポーターの派遣、創業セミナーの開催等の総合的な支援を実施。

課題

- 過去10年間のベンチャーキャピタル投資額の推移を見ると、日本は増加傾向にはあるものの、スタートアップが多く生まれている諸外国(アメリカ・中国・シンガポール等)と比較して、投資額は遥かに小さい。
- 既成概念にとらわれないベンチャーキャピタルの育成支援のほか、全国規模でスタートアップの経営人材のプール化に取り組み、地方から当該人材に容易にアクセスできる環境整備など、財的・人的の両面から地方でスタートアップが生まれ成長する実効性のある仕組みが必要である。
- 実装を加速するためには、導入に係るコストの軽減、ソリューションの認知度向上等が必要。また、先進的なビジネスモデルの場合、現行法の規制が障壁となることがあるため、国、地方自治体、民間企業等が一体となりスピード感を持って規制緩和やルールメイクに取り組む必要がある。